

進路だより

令和3年12月日
都立中野特別支援学校
第4号
校長 和田 慎也
担当 小田原 紀子

【専任より】

■事前面接におけるエピソード

中学生や高校生くらいになると、自分の身なりを気にするようになります。好きな「人」に対して少しでも自分を良く見せようと、整髪料やドライヤーを手に鏡の前から離れなかったあの頃の事を、保護者の皆様もきっと覚えているはずです。

高等部の現場実習では、実習前に「事前面接」があります。「事前面接」では、現場実習の具体的な内容について、生徒（保護者）と実習先、学校とで確認し合う場となっています。「事前面接」は、生徒と実習先の担当者が初めて顔を合わせる場となることから、生徒に緊張感をもたせるねらいもあり、「事前面接」と呼ぶようにしています。

もしかしたら、数年後に利用するかもしれない福祉施設…

もしかしたら、数年後に就職するかもしれない企業…

初めての顔合わせの場では、自分を良く見せたい！

誰もがそう思うはずです。「事前面接」では、自分の身なりを整えて臨みたいものです。

本校の生徒の中には、自分で身なりを整えられない方がいらっしゃいます。初めての顔合わせの場、本人ができないからといって、何もしないでそのまま良いのでしょうか？そこは、御家族の気遣い一つで、初めての顔合わせの場が意味あるものになります。

高等部2年生のエピソード。その日は、彼の実習前の「事前面接」でした。そうとも知らず、何気なく授業で彼と向き合った時、ビシッとセッティングされた彼の髪。

嬉しかった…

実習に対する御家族の強い意気込みが感じられました。

(田邊)

【専任より】

■保護者向け進路研修会について

12月3日金曜日に第2回保護者向け進路研修会を行いました。テーマを「企業で働く上で必要な力」と題し、日興みらん株式会社の松川様、浦田様を講師に招き、御講演いただきました。当日はオンラインを含め、50名近い保護者の方に御参加いただきました。「会社での取り組み」といった話はもちろんのこと、「児童・生徒の可能性を決めつけない」や「自己発信の必要性」等、今から取り組めることについてお話しいただきました。残念ながら、アーカイブでの配信はございませんが、事前に配布をさせていただきました資料を見ていただくだけでも参考になると思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

■自己発信について

現在、高等部3年生の現場実習が佳境を迎えております。今年度は福祉と企業の実習を通して「自己発信」についての課題を受けるケースが多かったように思います。自分のことを話すこともそうですが、「わからない時」「困った時」に立ち尽くしてしまい、助けをもらえるまで待つというケースがそれにあたります。悪く言うと「助けられることになれ過ぎている」人が多かったです。授業の中では「困ったときどうしますか？」と生徒に問いかけると「質問をする」「先生に伝える」といった回答が来ますが、いざ実践の場になると中々難しかったようです。実習という場なので「知らない人だらけ」「失敗してはいけないのではないか」という思いが働いているのかもしれませんが、私は「経験不足」の影響が出ているのではないかと考えています。生徒に「失敗をさせない、困らない方法」を教えすぎており、「失敗した時、困ったときの起き上がる方法」を教えられていないのではないかと思います。失敗はとても恐いですし、できることならしたくないです。しかし、それを恐れていたら自分で起き上がる経験ができません。早すぎたり、遅すぎたりすることはありません。ぜひ、いろいろなことに挑戦をしていき、「自己発信」のトレーニングをして行きましょう。

(吉田)

【小学部】

5, 6年生は1学期に進路部専任より「仕事をする事」について学び、技能主事の方の仕事を体験させていただきました。2学期は、それらを踏まえて「はたらくこと」を題材とした「はたらきマン」を学習発表会で発表しました。身近な仕事や憧れている仕事として、漁師、配達員、寿司職人、消防士、パティシエを取り上げ、どんな仕事をしているのかを活動を通して学ぶことができました。子供たちにとって、仕事をする事が少し身近なこととして感じてもらえたのではないかと思います。

今年は長い冬休みとなります。御家庭で、子供たちにお手伝いをさせていただくことで、「家庭内での仕事」について、経験を積み重ねていけるよう、御協力をお願いいたします。(小田原)

【中学部】

＜就業体験（2年生）＞

10月15日（金）、22日（金）の2日間に分けて「中野区立弥生福祉作業所」で就業体験が実施されました。福祉作業所で働く方々の仕事を見学させていただき、実際にチラシ折込作業の体験をしました。事前学習では高等部の進路の先生の出張授業を通して集団行動や礼儀作法を学びました。事後学習では体験したことを新聞にまとめて、学びを振り返りました。卒業後の進路先を知り、働くことへの興味や関心を高めることのできた就業体験となりました。

(伊藤)



【高等部1年】

今学期は、企業や福祉事業所の方に来校していただき、自らの進路について『知る』学習を深める機会が多くありました。

まず、10月22日（金）には、「サントリービジネスサービス株式会社」による出前授業があり、ビジネスマナーの学習とともに、特別支援学校出身の社員様から体験談を聞くことができ、何事にも恐れず『やってみなはれ』の精神で挑戦することの大切さを教えていただきました。

また、11月26日（金）に一回目の『職場見学』がありました。本校のために新たに作成した動画による事業内容の説明を聞いた後、作業体験を行いました。「JFE 商事サービス株式会社」は磁石を使いながらの文房具の分別作業、「トヨタモビリティ株式会社」は洗車体験、「中野区福祉事業団」からは名刺の袋詰め、「ワークみらい」からはお菓子の袋詰めやラベル貼り、紙のリサイクル作業を提供していただきました。良い緊張感のもと、自己の進路実現に向けて階段を一段上った一日となりました。(宗形)

【高等部2年】

2年生も現場実習が始まりました。教員付き添いの下に学校から行ったミニ実習とは違い、この現場実習では、あらためて課題が浮き彫りになります。例えば、仕事のやり方が分からない、何をしたらいいの分からないが、自分から聞くことができない、といった課題が明らかになっています。

生徒らには般化の難しさという困難があります。ある場面ではできることが、違う場面になるとできなくなってしまう、ということです。我々は学校生活の中で、生徒が分からなかったりできなかったりする場面を意図的に設定しています。あるいは、何か手伝うときも「お願いします」と依頼を受けてからするなど、自分から発信することを大切にしています。御家庭ではいかがでしょうか？お子さんが困っているときに、つつい手伝ってあげたり、あるいは最初から困らないようにすべて整えてしまったりしていませんか。彼らの自立という視点から、このような魔法の手や転ばぬ先の杖をあえて封印し、学校でも御家庭でも、「自分から発信する力」、「伝えようとする態度」を養っていただければと思います。

最後に、この実習の実施にあたりましては、いつも以上に保護者の皆様の御理解と御協力を賜りまして、誠にありがとうございます。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。(和泉 森井)

【高等部3年】

2学期も現場実習に対して御理解・御協力をいただき、誠にありがとうございました。お陰様で3年生のテーマである進路を「決める」ための現場実習を各自実施することができました。現場実習では褒められることばかりではなく、今後の課題も指摘されたかと思います。今後の課題に対しては耳の痛いことも多いかもしれませんが、今後のお子さんの成長にとっては貴重な金言でもあると思います。4月から良いスタートを切る為、実習先から指摘された課題に対して真摯に耳を傾け、残りの学校生活で少しでも達成できるようにしていきましょう。私たちも4月から良いスタートを切ることができるよう、全力でバックアップしていきます。3学期も生徒たちの支援に対する御理解・御協力どうぞよろしく願いいたします。(江川 本橋)